

京都も五月三日才四回大会を清算せる全会派との合同大会として（赤帯代表議員四二三名）統一を完了した。

栃木は五月十五日ニルモ下かりの合同大会（代表議員五〇名）をやつた。近畿の農民団体協議会の職務整理委員会は全国大会後二回開かれ大が見るべき成果を上げてゐない。ただ兵庫と徳島の青年黄金路を題目とする共同斗争は今後の成果に期待すべきものがあつた。北海道は六月十日の支部代表者会試で総本部支持を明らかにして復帰を決議した。

福岡縣派と稲佐との統一運動は地域がはなれてゐるので意の如くならぬが、今日では対立的感懷は全くなく、顧問弁護士は双方かけもちであり、日夜追ひつゝ、ある。高知は全会派が majority を持つ支部が一つしかないこと及び、幹部の斗争としての素直な問題となつてあまり進行してゐない。

戦線統一運動は既存の勢力を合流して、これを基礎として戦線の積極的拡充をはかることが眼目であるが、統一を完了せる地方は各地ともまだ漸く書記局を充実したと云ふ程度で積極的拡充まで進んでゐない。

地方大会その他

地方大会の他
地方に於ける主なる集會は次の如し。

- 一、新潟縣派才十三回大会（八月）
 - 一、青森縣派才四回大会（九月）
 - 一、東洋建設委員会（八月）
 - 一、青年部岡山縣派結成大会（四月）
 - 一、婦人部（最初の独立部門として）南嶺東地区結成大会（五月）
- その他、岡山の農民部紀念事業としての農家調査、猪俣津南雄氏による全国農村実地踏査、岡山の講習会（鈴木孝三郎氏）、宮城の講習会（杉山委員長、岡田栄司氏）等は記録すべき事であらう。

青年運動

福島農村では極端な青年が五日会と云ふのを作つた。本や雑誌を備付時事問題その他の研究会を持つ。前落新聞を創してゐる。農事改良の奨励やつたり、映画会を持つたりしてゐる。

東洋地方のやうに生産力の止つても文化の上でも他よりおくれてゐる地方では、二人などころから青年をひびく奨励、それから青年運動と組合運動の新人をつくつて行く事が適切なやり方であらう。五及百性の多い奈良でも、最近家庭工業が盛んになつて、そこへ多くの青年はゆきに来る。全農青年部と云ふたのは、最初から地方も関心も盛きと云ふべきでない。そこで農村青年団といふかたぢな種々な青年をひびくあつめる事になつた。